

2020 年度（令和 2 年度）

シラバス

柔道整復学科 昼間部

履正社医療スポーツ専門学校

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	総合栄養学		講師名	下村有佳里	
実務内容			実務経験		
講義形態	講義	学期	前期	分野	基礎分野
講義目的	生命維持に必要な栄養素を理解し、組み合わせや欠乏症、現代の栄養摂取状態を理解する。				
到達目標	栄養素を組み合わせた献立や、健康維持に必要な栄養やその摂取方を理解する。				
回数	講義計画				
第1回	栄養とは／栄養の定義 生命維持 五大栄養素				
第2回	栄養素・成分 日本人の食事摂取基準／栄養学の歴史				
第3回	遺伝と健康 サーカディアンリズム				
第4回	蛋白質／必須アミノ酸				
第5回	アミノ酸スコア 体内動態				
第6回	糖質の種類／糖質の消化／糖質の代謝経路				
第7回	脂質の消化／脂質代謝				
第8回	ビタミン／ミネラル				
第9回	スポーツ種目特性 エネルギー消費量／栄養ケアマネジメント				
第10回	試合期「の食事のとり方／試合時、試合後の食事のとり方				
第11回	年齢・ライフスタイル別の体づくり				
第12回	日常の献立作成				
第13回	骨の増減／スポーツ障害				
第14回	摂取障害 思春期の月経障害				
第15回	試合期の献立作成				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	栄養・健康科学シリーズ15 スポーツ栄養学 化学同人				
参考文献	コンディショニングのスポーツ栄養学 市村出版 健康・栄養科学シリーズ 基礎栄養学 南江堂				
評価基準	筆記試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	総合心理学			講師名	齊藤 雅子	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義	学期	前期	分野	基礎分野	
講義目的	日常生活場面において体験した事象を心理学的な視点に照らし合わせて学ぶこと、臨床場面における心理学的視点を学ぶことで、対人援助職従事者としての心構えや患者との関係性の理解を深めることを目的とする。					
到達目標	日常生活での自分自身の体験・経験を心理学的な理論に照らし合わせて理解する。					
回数	講義計画					
第1回	心理学とは／学習(古典的条件づけと道具的条件づけ)					
第2回	記憶の構造と働き／知覚の様式と認知					
第3回	動機づけ／発達理論					
第4回	パーソナリティー					
第5回	臨床心理学とは／精神力動アプローチ					
第6回	クライアント中心療法／ゲシュタルト療法					
第7回	認知行動療法					
第8回	スポーツ心理学とは／運動のメカニズム					
第9回	効果的な運動指導／運動の制御					
第10回	目標設定と動機づけ					
第11回	スポーツにおける集団／運動とパーソナリティ					
第12回	スポーツメンタルトレーニング					
第13回	スポーツカウンセリング					
第14回	健康スポーツ心理学の基礎／スポーツ傷害の心理学、バーンアウト(燃え尽き症候群)					
第15回	健康増進を目的とした身体活動、運動の参加と継続／スポーツの心理的効果					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト						
参考文献	「臨床心理学入門」 岩壁茂ほか 有斐閣アルマ 「医療行動科学のためのミニマムサイコロジー」 山田富美雄 北大路書房					
評価基準	筆記試験、課題提出評価					
履修上の注意	授業に積極的に参加しましょう。					
備考						

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	基礎演習A(ソーシャルフィールドワーク)		講師名 実務経験	山根 裕介	
実務内容					
講義形態	講義・演習	学期		分野	基礎分野
講義目的	将来、柔道整復師として医療介護健康福祉関連などが実践および研究「発表されている現場を学習フィールドとして、座学で学んだ理論を検証、研究する能力と、集団組織の中での自らの活躍の仕方を身につける。				
到達目標	知的好奇心を高揚させ、研究心を身につける。チームアプローチ・チームビルディングを理解し、実践できる。				
回数	講義計画				
第1回	講義計画、ガイダンス、アイスブレイク				
第2回	柔道整復学における古来の手技的理論を聴講(アールベーター—医学)				
第3回	具体的集団活動と協同、応用チームアプローチとビルディング(フレッシュセミナー)				
第4回	具体的集団活動と協同、応用チームアプローチとビルディング(フレッシュセミナー)				
第5回	具体的集団活動と協同、応用チームアプローチとビルディング(フレッシュセミナー)				
第6回	具体的集団活動と協同、応用チームアプローチとビルディング(フレッシュセミナー)				
第7回	集団活動と組織協同、チームアプローチとチームビルディング(文化祭)				
第8回	公益社団法人大阪府柔道整復師会学術大会の聴講				
第9回	医療介護福祉に関する講義を聴講(学術大会特別講演)				
第10回	卒業研究発表 運営、聴講(校内学術大会)				
第11回	他学科チームアプローチとビルディング(体育祭)				
第12回	公益社団法人 日本柔道整復師会近畿学会の聴講				
第13回	大学医科教育の聴講と実習、医科学生活動の模擬体験(医科大学で実施)				
第14回	集団組織の中での自らの活躍の仕方(グループワーク・ワールドカフェ)				
第15回	フィードバック 面談				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	オリエンテーション時に配布				
参考文献	オリエンテーション時に配布				
評価基準	研究記録簿の評価(70%)、プレゼン(10%)、授業貢献度(10%)、レポート(10%)で評価する				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	基礎演習D(キャリアプランニング)		講師名 実務経験	竹内 希美子	
実務内容					
講義形態	講義・演習	学期	前期	分野	基礎分野
講義目的	アロマセラピーの安全で適切な使用方法を学び、より身近に感じてもらうとともに、ホリスティック的な意味を理解する。				
到達目標	においの嗅ぎ分けとブレンドが実践できるようになる				
回数	講義計画				
第1回	アロマセラピーとは				
第2回	アロマセラピーの歴史				
第3回	精油とは				
第4回	精油学				
第5回	精油学				
第6回	精油化学				
第7回	基材論				
第8回	精油の安全性				
第9回	コンサルテーション理論				
第10回	コンサルテーション方法				
第11回	ブレンド方法				
第12回	コンサルテーション実践 I				
第13回	コンサルテーション実践 II				
第14回	ブレンド実践 I				
第15回	ブレンド実践 II				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	毎次限、資料を配布				
参考文献	アロマセラピーコンプリートブック 上・下巻 BABジャパン				
評価基準	課題遂行評価				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	基礎演習E(ビジネスイノベーション)		講師名 実務経験	竹内 希美子	
実務内容					
講義形態	講義・演習	学期	後期	分野	基礎分野
講義目的	アロマの基礎知識をもとに、より専門的な知識を身につけ、アロマセラピーインストラクターやセラピストと同等の知識を会得する				
到達目標	日々の施術の中で、クライアント(患者)相手にアロマを活用できる				
回数	講義計画				
第1回	精油学(基礎)				
第2回	基材論 実践Ⅰ				
第3回	基材論 実践Ⅱ				
第4回	精油学(応用)				
第5回	精油学(高等)				
第6回	基材論 実践Ⅲ				
第7回	基材論 実践Ⅳ				
第8回	トリートメント理論Ⅰ				
第9回	トリートメント理論Ⅱ				
第10回	コンサルテーション実践				
第11回	ベッドメイキング、タオルワーク				
第12回	タオルワーク実践				
第13回	トリートメント実践(上肢)				
第14回	トリートメント実践(下肢)				
第15回	トリートメント実践(体幹)				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	毎時限、資料を配布				
参考文献	アロマセラピーコンプリートブック 上・下巻 BABジャパン				
評価基準	課題遂行評価				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	解剖学 I <総論・体表解剖>			講師名	井上 敬夫	
実務経験	実務経験					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野	
講義目的	図表、写真を用いて、名称だけでなく機能も説明することによって理解度を高める。 国家試験にも対応できるように過去問の解説も行っていく。					
到達目標	名称を暗記するだけでなく、実際の配置をイメージでき、その機能を含めて説明できる。					
回数	講義計画					
第1回	解剖学の意義、解剖学の分類、解剖学用語					
第2回	細胞と細胞小器官					
第3回	組織(上皮組織、支持組織[結合組織など])					
第4回	組織(支持組織[血液など]、筋組織)					
第5回	発生					
第6回	器官系統					
第7回	人体の区分					
第8回	体表解剖(骨格系)					
第9回	体表解剖(筋系)					
第10回	体表解剖(脈管系)					
第11回	体表解剖(神経系)					
第12回	体表解剖(目、耳、鼻、口)					
第13回	体表解剖(外皮、生体計測)					
第14回	映像解剖(診断用X線、CTスキャン)					
第15回	映像解剖(MRI、サーモグラフィー)					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	解剖学・第2版(医歯薬出版)					
参考文献	人体解剖図(成美堂出版)、解剖学(ナツメ社)					
評価基準	筆記試験					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	解剖学Ⅱ<骨学>		講師名	賀屋 光晴	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野
講義目的	治療家として最低限必要なレベルの骨学を習得する。特に骨の各部位の名称や関節の構造、人体などについて理解する。				
到達目標	骨の名称が理解できる 骨の各部位の名称が理解できる 骨の連結の種類、関節運動が理解できる 関節の構造、靭帯の名称が理解できる				
回数	講義計画				
第1回	骨学総論				
第2回	骨学総論				
第3回	骨学総論				
第4回	骨学総論				
第5回	上肢の骨				
第6回	上肢の骨の連結				
第7回	上肢の骨の連結				
第8回	下肢の骨				
第9回	下肢の骨の連結				
第10回	下肢の骨の連結				
第11回	胸郭の骨				
第12回	椎骨				
第13回	椎骨				
第14回	頭蓋				
第15回	頭蓋				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	解剖学 改定第6版 医歯薬出版株式会社 ・ プロメテウス 改定第3班 医学書院				
参考文献	イラスト解剖学(中外医学社)、解剖学講義(南山堂)、ネッター解剖学アトラス(南江堂)				
評価基準	筆記試験、授業貢献度				
履修上の注意	予習・復習を十分に行うこと				
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	解剖学Ⅲ<筋学>		講師名	賀屋 光晴	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	骨格筋の名称や付着部位を覚える。骨格筋の作用について理解する。				
到達目標	骨格筋の名称が理解できる 骨格筋の起始部、停止部、支配神経が理解できる 骨格筋の作用が理解できる				
回数	講義計画				
第1回	筋の総論				
第2回	上肢の筋(上肢帯)				
第3回	上肢の筋(自由上肢)				
第4回	上肢の筋(自由上肢)				
第5回	上肢の筋(自由上肢)				
第6回	下肢の筋(下肢帯)				
第7回	下肢の筋(下肢帯)				
第8回	下肢の筋(自由下肢)				
第9回	下肢の筋(自由下肢)				
第10回	下肢の筋(自由下肢)				
第11回	体幹の筋(腹部)				
第12回	体幹の筋(胸部)				
第13回	体幹の筋(背筋)				
第14回	頸部の筋				
第15回	頭部の筋				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	解剖学 改定第6版 医歯薬出版株式会社 ・ プロメテウス 改定第3班 医学書院				
参考文献	イラスト解剖学(中外医学社)、解剖学講義(南山堂)、ネッター解剖学アトラス(南江堂)				
評価基準	筆記試験、授業貢献度				
履修上の注意	予習・復習を十分に行うこと				
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	解剖学Ⅳ<脈管学>		講師名	重吉 康史	
実務内容	実務経験				
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	図表、写真を用いて、名称だけでなく機能も説明することによって理解度を高める。				
到達目標	名称を暗記するだけでなく、実際の配置をイメージでき、その機能を含めて説明できる。				
回数	講義計画				
第1回	概論・総論				
第2回	心臓(位置・形態・構造)				
第3回	刺激伝導系・心臓の脈管・神経・心膜				
第4回	肺循環				
第5回	大動脈・頭部・頸部の動脈				
第6回	上肢の動脈				
第7回	胸大動脈・腹大動脈				
第8回	骨盤部の動脈・下肢の動脈				
第9回	腹大動脈				
第10回	静脈・上大静脈				
第11回	下大静脈・門脈				
第12回	骨盤部の静脈・下肢の静脈				
第13回	胎児循環				
第14回	リンパ・リンパ本幹				
第15回	リンパ性器官				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	解剖学 改訂第2版(医歯薬出版株式会社)				
参考文献	人体解剖図(成美堂出版)、解剖学(ナツメ社)				
評価基準	筆記試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	解剖学Ⅴ<内臓学>			講師名	井上 敬夫	
実務内容	実務経験					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野	
講義目的	図表、写真を用いて、名称だけでなく機能も説明することによって理解度を高める。 国家試験にも対応できるように過去問の解説も行っていく。					
到達目標	名称を暗記するだけでなく、実際の配置をイメージでき、その機能を含めて説明できる。					
回数	講義計画					
第1回	消化器総論、口腔					
第2回	食道、胃					
第3回	小腸、大腸					
第4回	肝臓、膵臓					
第5回	呼吸器総論、鼻腔、副鼻腔					
第6回	咽頭、喉頭、声帯					
第7回	気管、気管支、肺					
第8回	泌尿器総論、腎臓					
第9回	腎臓、尿管、膀胱、尿道					
第10回	男性生殖器総論、精巣					
第11回	精子の形成、精管、前立腺					
第12回	女性生殖器総論、卵巣					
第13回	卵子の形成、卵管、子宮					
第14回	分泌総論及び各論					
第15回	脾臓、リンパ節					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	解剖学 改訂第2班(医歯薬出版株式会社)					
参考文献	人体解剖図(成美堂出版)、解剖学(ナツメ社)					
評価基準	定期試験					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	解剖学Ⅵ<神経学>		講師名	重吉 康史	
実務内容	実務経験				
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	図表、写真を用いて、名称だけでなく機能も説明することによって理解度を高める。				
到達目標	名称を暗記するだけでなく、実際の配置をイメージでき、その機能を含めて説明できる。				
回数	講義計画				
第1回	神経の区分と特徴、神経組織				
第2回	灰白質、白質と神経節、根。中枢神経区分				
第3回	脳室系、髄膜と脳脊髄液				
第4回	脳(終脳、間脳)				
第5回	脳(中脳、橋、延髄、小脳)				
第6回	脊髄(区分)				
第7回	脊髄(伝導路)				
第8回	脳神経(嗅、視、動眼、滑車神経)				
第9回	脳神経(三叉、外転、顔面、内耳神経)				
第10回	脳神経(舌咽、迷走、副、舌下神経)				
第11回	脊髄神経(脊髄神経後枝、頸、腕神経叢)				
第12回	脊髄神経(胸、腰、仙骨神経叢)				
第13回	脊髄神経(陰部神経叢、尾骨神経など)				
第14回	自律神経系(交感神経)				
第15回	自律神経系(副交感神経)				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	解剖学 改訂第2版(医歯薬出版株式会社)				
参考文献	人体解剖図(成美堂出版)、解剖学(ナツメ社)				
評価基準	筆記試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	生理学 I <基礎>			講師名	武田 ひとみ	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野	
講義目的	医学の基礎分野として身体の仕組みや機能を知り、種々の疾患につなげる					
到達目標	身体の機能を知り、各臓器との関連や生命維持のメカニズムなどを理解する					
回数	講義計画					
第1回	生理学の基本／ホメオスタシス					
第2回	生理学の基礎2／細胞					
第3回	生理学の基礎3／浸透圧					
第4回	血液1／組成					
第5回	血液2／免疫					
第6回	血液3／血液型、止血機構					
第7回	循環1／心臓の機能と構造					
第8回	循環2／心電図					
第9回	血管系1／循環調節					
第10回	血管系2／局所循環					
第11回	呼吸器1					
第12回	呼吸器2					
第13回	消化器系1					
第14回	消化器系2					
第15回	ホルモン、調節					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	生理学 改訂第3版(医歯薬出版株式会社)					
参考文献						
評価基準	筆記試験					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	生理学 I <基礎>			講師名	秋山 文宏	
実務内容	実務経験					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野	
講義目的	疾患や怪我のときは身体が正常な状態ではありません。それを判断し、治療するために正常な身体の状態を理解する必要がある。					
到達目標	自分の身体がいかに巧妙にできているかを知るとともに、身体の各部位の仕組みと働きをシンプルに図示しえ説明できるようになることを目指す。					
回数	講義計画					
第1回	血液とその組成					
第2回	血液とその組成					
第3回	免疫					
第4回	免疫					
第5回	内分泌器官とホルモン					
第6回	内分泌器官とホルモン					
第7回	消化その1(消化と吸収)					
第8回	消化その1(消化と吸収)					
第9回	消化その2(肝臓)					
第10回	消化その2(肝臓)					
第11回	体液分布と液性					
第12回	体液分布と液性					
第13回	体温調節					
第14回	体温調節					
第15回	まとめ 復習					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	生理学 改訂第3版(医歯薬出版株式会社)					
参考文献	適宜資料を配布					
評価基準	筆記試験					
履修上の注意	授業中は積極的に取り組むこと					
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	生理学Ⅱ<一般>		講師名	秋山 文宏	
実務内容			実務経験		
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野
講義目的	疾患や怪我のときは身体が正常な状態ではありません。それを判断し、治療するために正常な身体の状態を理解する必要がある。				
到達目標	自分の身体がいかに巧妙にできているかを知るとともに、身体の各部位の仕組みと働きをシンプルに図示しえ説明できるようになることを目指す。				
回数	講義計画				
第1回	呼吸その1				
第2回	呼吸その2				
第3回	排出その1(腎臓)				
第4回	排出その1(腎臓)				
第5回	排出その2(泌尿器)				
第6回	排出その2(泌尿器)				
第7回	細胞				
第8回	細胞				
第9回	神経基礎				
第10回	神経基礎				
第11回	神経系その1(中枢神経系)				
第12回	神経系その1(中枢神経系)				
第13回	神経系その2(末梢神経系)				
第14回	神経系その2(末梢神経系)				
第15回	まとめ 復習				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	生理学 改訂第3版(医歯薬出版株式会社)				
参考文献	適宜資料を配布				
評価基準	筆記試験				
履修上の注意	授業中は積極的に取り組むこと				
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	生理学Ⅱ<一般>			講師名	武田 ひとみ	
実務内容	実務経験					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野	
講義目的	医学の基礎分野として身体の仕組みや機能を知り、種々の疾患につなげる					
到達目標	身体の機能を知り、各臓器との関連や生命維持のメカニズムなどを理解する					
回数	講義計画					
第1回	栄養と代謝					
第2回	糖質、脂質、蛋白質					
第3回	体温					
第4回	熱産生、調節、発熱とうつ熱					
第5回	排泄					
第6回	腎臓の機能、泌尿器					
第7回	内分泌					
第8回	情報伝達					
第9回	視床下部-下垂体機能					
第10回	甲状腺の機能					
第11回	副腎の機能					
第12回	膵臓の機能					
第13回	精巣の機能					
第14回	卵巣の機能					
第15回	まとめ 確認					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	生理学 改訂第3版(医歯薬出版株式会社)					
参考文献						
評価基準	筆記試験					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	生理学Ⅲ<応用>		講師名	秋山 文宏	
実務内容	実務経験				
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	疾患や怪我のときは身体が正常な状態ではありません。それを判断し、治療するために正常な身体の状態を理解する必要がある。				
到達目標	自分の身体がいかに巧妙にできているかを知るとともに、身体の各部位の仕組みと働きをシンプルに図示しえ説明できるようになることを目指す。				
回数	講義計画				
第1回	筋肉				
第2回	筋肉				
第3回	視覚器				
第4回	視覚器				
第5回	聴覚器				
第6回	聴覚器				
第7回	皮膚感覚や味覚				
第8回	皮膚感覚や味覚				
第9回	生殖その1(男性)				
第10回	生殖その1(男性)				
第11回	生殖その2(女性の性周期)				
第12回	生殖その2(女性の性周期)				
第13回	循環その1(血液循環)				
第14回	循環その1(血液循環)				
第15回	循環その2(心電図)				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	生理学 改訂第3版(医歯薬出版株式会社)				
参考文献	適宜資料を配布				
評価基準	筆記試験				
履修上の注意	授業中は積極的に取り組むこと				
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	生理学Ⅲ<応用>		講師名	武田 ひとみ	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	医学の基礎分野として身体の仕組みや機能を知り、種々の疾患につなげる				
到達目標	身体の機能を知り、各臓器との関連や生命維持のメカニズムなどを理解する				
回数	講義計画				
第1回	生殖器1／生殖腺				
第2回	生殖器2／男性生殖器				
第3回	生殖器3／女性生殖器				
第4回	生殖器4／卵巣周期				
第5回	生殖器5／妊娠と分娩				
第6回	骨／構造				
第7回	骨形成、調節				
第8回	体液1				
第9回	体液2				
第10回	静止膜電位、活動電位				
第11回	伝導と伝達				
第12回	筋肉				
第13回	骨格筋				
第14回	心筋				
第15回	平滑筋／神経系				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	生理学 改訂第3版(医歯薬出版株式会社)				
参考文献					
評価基準	筆記試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	生理学Ⅳ<高等>		講師名	武田 ひとみ	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	医学の基礎分野として身体の仕組みや機能を知り、種々の疾患につなげる				
到達目標	身体の機能を知り、各臓器との関連や生命維持のメカニズムなどを理解する				
回数	講義計画				
第1回	神経系1/運動器系				
第2回	神経系2/制御・反射				
第3回	脊髄神経1				
第4回	脊髄神経2				
第5回	脳1/大脳皮質				
第6回	脳2/小脳、大脳基底核				
第7回	自律神経1/交感神経				
第8回	自律神経2/副交感神経				
第9回	高次機能/脳地図、脳波				
第10回	感覚1/分類				
第11回	感覚2/体性感覚				
第12回	嗅覚、味覚				
第13回	聴覚、平衡感覚、視覚				
第14回	総復習1				
第15回	総復習2				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	生理学 改訂第3版(医歯薬出版株式会社)				
参考文献					
評価基準	筆記試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	生理学Ⅳ<高等>		講師名	秋山 文宏	
実務内容	実務経験				
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	疾患や怪我のときは身体が正常な状態ではありません。それを判断し、治療するために正常な身体の状態を理解する必要がある。				
到達目標	自分の身体がいかに巧妙にできているかを知るとともに、身体の各部位の仕組みと働きをシンプルに図示しえ説明できるようになることを目指す。				
回数	講義計画				
第1回	代謝その1				
第2回	代謝その1				
第3回	代謝その2				
第4回	代謝その2				
第5回	生理学総合1(血清とホルモン)				
第6回	生理学総合1(血清とホルモン)				
第7回	生理学総合2(代謝と消化)				
第8回	生理学総合2(代謝と消化)				
第9回	生理学総合3(代謝と呼吸、循環)				
第10回	生理学総合3(代謝と呼吸、循環)				
第11回	生理学総合4(神経と行動)				
第12回	生理学総合4(神経と行動)				
第13回	生理学総合5(生殖と発生)				
第14回	生理学総合5(生殖と発生)				
第15回	まとめ				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	生理学 改訂第3版(医歯薬出版株式会社)				
参考文献	適宜資料を配布				
評価基準	筆記試験				
履修上の注意	授業中は積極的に取り組むこと				
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	運動学			講師名	青木 孝至	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野	
講義目的	解剖学との知識と運動し、人間の運動に関わる身体の機能と構造について基本的な知識を養う。ヒトの運動発達を学び、姿勢や歩行を分析できる能力を向上させ、治療につなげる。					
到達目標	四肢・体幹の運動機能を理解する。					
回数	講義計画					
第1回	運動学の目的、運動の表し方					
第2回	身体運動と力学①					
第3回	身体運動と力学②					
第4回	運動器の構造と機能					
第5回	神経の構造と機能					
第6回	反射と随意運動					
第7回	運動感覚、運動学習					
第8回	運動発達					
第9回	姿勢					
第10回	歩行①					
第11回	歩行②					
第12回	四肢と体幹の運動①					
第13回	四肢と体幹の運動②					
第14回	四肢と体幹の運動③					
第15回	復習まとめ					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	全国柔道整復学校協会監修:運動学/医歯薬出版					
参考文献						
評価基準	評価試験					
履修上の注意						
備考						

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	衛生学・公衆衛生学 I (基礎)		講師名	晃野 真季	
実務内容	実務経験				
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野
講義目的	健康について人々の健康を増進させるための諸要素と予防の重要性を認識させ施術に際し医療の倫理と安全の確保についての認識を身に付ける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ●欧米・日本の衛生学 公衆衛生学の発展歴史をめぐって、その概念および活動の理解 ●健康に対する理解および疾病予防・健康管理の理解 ●わが国における衛生行政・医療保障の理解 ●各分野における公衆衛生活動の理解(現状、指標、対応方法・対策) ●衛生統計の見方とその意義および疫学の理解 				
回数	講義計画				
第1回	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動と健康の概念				
第2回	衛生統計				
第3回	疾病の予防と健康管理				
第4回	感染症の予防①				
第5回	感染症の予防②				
第6回	消毒				
第7回	環境衛生①				
第8回	環境衛生②				
第9回	生活環境				
第10回	食品衛生活動				
第11回	ヒトを対象とする保健活動①(母子・学校・産業・成人・老人保健・精神)				
第12回	ヒトを対象とする保健活動②(母子・学校・産業・成人・老人保健・精神)				
第13回	地域保健と国際保健				
第14回	衛生行政と保健医療の制度と医療の倫理と安全の確保				
第15回	疫学				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	衛生学・公衆衛生学 改定第6版 南江堂				
参考文献	国民衛生動向				
評価基準	筆記試験を基本とし、授業貢献度なども考慮する				
履修上の注意	教科書持参すること、授業中の私語と携帯電話の使用は禁止すること。				
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	柔道 I			講師名	中村 義毅	
				実務経験	○	
実務内容	柔道6段の実績から経験と技術を学生に指導					
講義形態	実技	学期	前期	分野	専門基礎分野	
講義目的	柔道実技を通じて、自らの心身のすこやかな成長をねらうと共に、身体の仕組みを学び、理解させる。					
到達目標	礼儀・礼節の習得と基礎運動、柔道実技での受身動作を習得する。					
回数	講 義 計 画					
第1回	体操、前転後転等準備体操、後受身、横受身等の練習					
第2回	体操、前転後転等準備体操、後受身、横受身等の練習					
第3回	体操、後受身、横受身、前回り受身の説明と練習					
第4回	柔道着の着方の説明 前回り受身の練習(右)					
第5回	前回り受身(右)が出来るようになる 左前回り受身の練習					
第6回	前回り受身(右・左)の練習 立礼、坐礼の説明、練習					
第7回	前回り受身(右・左)の練習 背負い投げの技の説明、練習					
第8回	前回り受身(右・左)の練習 背負い投げの練習(打込)					
第9回	前回り受身(右・左)の練習 背負い投げの練習(打込)					
第10回	前回り受身(右・左)の練習 背負い投げの練習(打込と投込)					
第11回	前回り受身(右・左)の練習 体落しの技の説明、練習					
第12回	前回り受身(右・左)の練習 体落しの練習(打込)					
第13回	前回り受身(右・左)の練習 体落しの練習(打込と投込)					
第14回	テストに向けて、前回り受身の練習 礼法の練習 打込投込の練習					
第15回	テストに向けて、前回り受身の練習 礼法の練習 打込投込の練習					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト						
参考文献						
評価基準	評価実技試験					
履修上の注意	出席率80%以上					
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	柔道Ⅱ			講師名	中村 義毅	
				実務経験	○	
実務内容	柔道6段の実績から経験と技術を学生に指導					
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門基礎分野	
講義目的	柔道実技を通じて、自らの心身のすこやかな成長をねらうと共に、解剖学などで習った身体の仕組みを柔道動作を通じて、理解する。					
到達目標	払腰や寝技(袈裟固他)などの柔道技を、クラスメイトと共に習得することで、柔道の楽しさと仕組みを理解する。					
回数	講義計画					
第1回	前回り受身(右・左)の練習 払い腰の技の説明、練習					
第2回	前回り受身(右・左)の練習 払い腰の練習(打込)					
第3回	前回り受身(右・左)の練習 払い腰の練習(打込と投込)					
第4回	前回り受身(右・左)の練習 払い腰の練習(打込と投込)					
第5回	前回り受身(右・左)の練習 寝技押込みの説明と練習					
第6回	前回り受身(右・左)の練習 寝技押込みの説明と練習					
第7回	前回り受身(右・左)の練習 大外刈りの技の説明、練習					
第8回	前回り受身(右・左)の練習 大外刈りの練習(打込)					
第9回	前回り受身(右・左)の練習 大外刈りの練習(打込と投込)					
第10回	前回り受身(右・左)の練習 大外刈りの練習(打込と投込)					
第11回	前回り受身(右・左)の練習 連絡技の説明と練習(大内刈り・小内刈り)					
第12回	前回り受身(右・左)の練習 連絡技の練習(大内刈り・小内刈り)					
第13回	前回り受身(右・左)の練習 連絡技 → 約束乱取の練習					
第14回	テストに向けて、前回り受身の練習 礼法の練習 約束乱取の練習					
第15回	テストに向けて、前回り受身の練習 礼法の練習 約束乱取の練習					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト						
参考文献						
評価基準	評価実技試験					
履修上の注意	出席率80%以上					
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	柔道整復学総論 I (基礎)			講師名	竹内 希美子	
実務内容	実務経験					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	柔道整復学の基礎である骨折・脱臼・捻挫等の外傷に対する概念を十分に理解し、各論につながる構成を組み立てる。					
到達目標	骨折・脱臼・捻挫・打撲・挫傷または軟部組織損傷に対する概論や分類、名称を理解する					
回数	講義計画					
第1回	柔道整復術および柔道整復師の沿革、業務範囲とその心得					
第2回	柔道整復術とは、人体に加わる力、損傷に関する身体の基礎的状态、損傷に加わる力					
第3回	骨の損傷、骨損傷の概説					
第4回	骨の損傷、骨折線の方向に分類、骨折の数による分類					
第5回	骨の損傷、外力の働き方による分類、骨の部位・経過による分類					
第6回	骨折の症状 骨折時の局所症状、全身症状、固有症状					
第7回	骨折の合併症①					
第8回	骨折の合併症②					
第9回	骨折の合併症③					
第10回	小児骨折、高齢者骨折の特徴①					
第11回	小児骨折、高齢者骨折の特徴②					
第12回	骨折の癒合日数					
第13回	骨折の予後					
第14回	骨折治癒に影響を与える因子					
第15回	習熟度小テスト					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	柔道整復学・理論編 改定第6版(南江堂)					
参考文献	柔道整復外傷学ハンドブック 総論(医道の日本社)					
評価基準	定期試験70%、習熟度小テスト・課題提出30%					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	柔道整復学総論Ⅱ(高等)			講師名 実務経験	竹内 希美子	
実務内容						
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	柔道整復学の基礎である骨折・脱臼・捻挫等の外傷に対する概念を十分に理解し、各論につながる構成を組み立てる。					
到達目標	骨折・脱臼・捻挫・打撲・挫傷または軟部組織損傷に対する概論や分類、名称を理解する					
回数	講義計画					
第1回	各組織の損傷 関節の損傷①(捻挫)					
第2回	各組織の損傷 関節の損傷②(捻挫)					
第3回	各組織の損傷 関節の損傷③(脱臼)					
第4回	各組織の損傷 関節の損傷④(脱臼)					
第5回	各組織の損傷 筋の損傷					
第6回	各組織の損傷 腱の損傷					
第7回	各組織の損傷 末梢神経の損傷					
第8回	診察の手順、治療計画、施術録の扱い					
第9回	治療法 整復法					
第10回	治療法 固定法					
第11回	治療法 手技療法、運動療法					
第12回	治療法 後療法					
第13回	治療法 指導管理					
第14回	治療法 指導管理					
第15回	習熟度小テスト					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	柔道整復学・理論編 改定第6版(南江堂)					
参考文献	柔道整復外傷学ハンドブック 総論(医道の日本社)					
評価基準	定期試験70%、習熟度小テスト・課題提出30%					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	柔道整復各論 I		講師名	山根 裕介		
			実務経験			
実務内容						
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	柔道整復師に必要な診察技術、触診、検査、介助方法、集団指導の方法を学ぶ。					
到達目標	柔道整復師として従事する為に必要な技術において、理論を理解し、実践する能力を身に付ける。					
回数	講義計画					
第1回	柔道整復診察学(1)人体に用いる方向用語					
第2回	柔道整復診察学(2)関節運動の名称(1)					
第3回	柔道整復診察学(2)関節運動の名称(2)					
第4回	静的評価					
第5回	動的評価					
第6回	四肢の計測(1)各部位の周囲径					
第7回	四肢の計測(2)各部位の周囲径					
第8回	関節可動域測定(上肢)					
第9回	関節可動域測定(下肢)					
第10回	関節可動域測定(まとめ)					
第11回	触診(上肢)					
第12回	触診(体幹)					
第13回	触診(下肢)					
第14回	触診(応用)					
第15回	復習・まとめ					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	配布資料					
参考文献	柔道整復学・理論編改訂第6版(南江堂) 解剖学改訂第2版(医歯薬出版株式会社)					
評価基準	記述式評価試験 60点以上:可 70点以上:良 80点以上:優					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	1 年	単位数	2 単位
科目名	柔道整復各論Ⅱ		講師名		
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義・演習	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	柔道整復各論Ⅰで身につけた知識・技術をもとに、医療現場において必要な各種検査の概論・実技を習得する。				
到達目標	各種検査の概論を理解し、技術を習得・実践できる。				
回数	講義計画				
第1回	周囲径・四肢の計測①				
第2回	周囲径・四肢の計測②				
第3回	静的・動的アライメント①				
第4回	静的・動的アライメント②				
第5回	静的・動的アライメント③				
第6回	徒手筋力検査 概論				
第7回	徒手筋力検査 実技(上肢・体幹)				
第8回	徒手筋力検査 実技(下肢)				
第9回	関節可動域検査 概論				
第10回	関節可動域検査 実技(上肢・体幹)				
第11回	関節可動域検査 実技(下肢)				
第12回	感覚検査(概論・実技)				
第13回	反射(概論・実技)				
第14回	生命徴候 概論				
第15回	生命徴候 実技(バイタルチェック)				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト					
参考文献	柔道整復学 理論編 改訂第6版(南江堂) 一般臨床医学 改訂第3版(医歯薬出版株式会社)				
評価基準	配布資料				
履修上の注意	筆記試験				
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復臨床演習 V			講師名	西 正人	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門分野	
講義目的	解剖学(特に神経、感覚器)の復習を行いながら、専門職として物理療法機器を適切に使用するという意識を持たせるようにする。					
到達目標	リスクマネジメントの実践					
回数	講義計画					
第1回	痛みの基礎①(痛みの種類、痛みのメカニズム)					
第2回	痛みの基礎②(急性痛と慢性痛、痛みの評価、痛みへのアプローチ)					
第3回	柔道整復師の治療法(整復法、固定法、後療法)					
第4回	柔道整復師の後療法(手技療法、運動療法、物理療法)					
第5回	物理療法①(分類、安全対策)					
第6回	物理療法②(電気療法 — 低周波療法、中周波療法)					
第7回	物理療法③(電気療法 — 実技体感)					
第8回	物理療法④(温熱療法 — 伝導熱療法、輻射熱療法)					
第9回	物理療法⑤(温熱療法 — 変換熱療法)					
第10回	物理療法⑥(温熱療法 — 実技体感)					
第11回	物理療法⑦(光線療法、寒冷療法)					
第12回	物理療法⑧(光線療法、寒冷療法 — 実技体感)					
第13回	物理療法⑨(牽引療法、その他)					
第14回	物理療法⑩(牽引療法、その他 — 実技体感)					
第15回	後期復習					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 柔道整復学・理論編					
参考文献						
評価基準	課題研究評価					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	基礎包帯固定法			講師名	桃井 俊明	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	実技	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	包帯固定の基礎となる巻軸包帯を用い、実技を行い、固定の目的や固定範囲、固定肢位の理解。					
到達目標	前期で基本包帯法を身に付け、後期に向け、部位別包帯が実践できる。					
回数	講義計画					
第1回	概論(固定・包帯の定義について)					
第2回	総論及び前腕部の包帯(理論と実技:折転帯)					
第3回	下腿部の包帯(理論と実技:折転帯)					
第4回	小麦粉湿布の作成と下腿部の包帯(実技:折転帯)評価あり					
第5回	肘関節の包帯(理論と実技:亀甲帯(離開・集合))及び前腕部の包帯					
第6回	膝関節の包帯(理論と実技:亀甲帯(離開・集合))及び下腿部の包帯					
第7回	手関節・指関節の包帯(理論と実技:麦穂帯(上行・下行))及び前腕部・肘関節部の包帯					
第8回	足関節・指関節の包帯(麦穂帯(上行・下行))及び下腿部・膝関節部の包帯					
第9回	肩関節の包帯(理論と実技:麦穂帯(上行・下行))					
第10回	肩関節の包帯(理論と実技:麦穂帯(上行・下行))					
第11回	体幹部の包帯(理論と実技:さらし)					
第12回	肩関節から肘関節までの包帯					
第13回	手関節から肘関節までの包帯					
第14回	足関節から膝関節までの包帯					
第15回	復習					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	包帯固定学改訂第2版(南江堂)					
参考文献						
評価基準	実技評価試験					
履修上の注意	出席率4/5以上					
備考	配布した包帯を必ず持参。白衣着用					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	包帯固定学 I			講師名 実務経験	桃井 俊明	
実務内容						
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門分野	
講義目的	前期で学んだ技術を活かし、冠名包帯などの応用包帯法を活用できるようにマスターする。					
到達目標	応用技術となる冠名包帯法を習得することで、実地研修先での指導を受けることができる。					
回数	講義計画					
第1回	ガイダンス(授業について・前期の復習)					
第2回	三角巾の使用法					
第3回	冠名包帯(デゾー氏包帯)					
第4回	冠名包帯(デゾー氏包帯)					
第5回	冠名包帯(実技:ウエルポー包帯・右)					
第6回	冠名包帯(実技:ウエルポー包帯・左)					
第7回	冠名包帯(実技:ジュール包帯・右)					
第8回	冠名包帯(実技:ジュール包帯・左)					
第9回	クラーメル副子・枕子の作成及び固定					
第10回	クラーメル副子固定					
第11回	ギプス固定及びシャーレ作成					
第12回	ギプス固定及びシャーレ作成					
第13回	頭部・顔面固定					
第14回	ミッテルドルフ三角副子固定					
第15回	復習					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	包帯固定学改訂第2版(南江堂)					
参考文献						
評価基準	実技評価試験					
履修上の注意	出席率4/5以上					
備考	配布した包帯を必ず持参。白衣着用					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	包帯固定学Ⅱ			講師名	山根 裕介	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門分野	
講義目的	テーピングやその他硬性材料を用いた関節の固定法を学ぶ。					
到達目標	テーピングや硬性材料の使用に関する理論を理解し、各部位の基本的なテーピングの実施ができる。					
回数	講義計画					
第1回	テーピング概論／足底のテーピング					
第2回	足関節に用いるテーピング(1)					
第3回	足関節に用いるテーピング(2)					
第4回	足関節底屈制限に用いるテーピング					
第5回	足関節背屈制限に用いるテーピング／アキレス腱炎に用いるテーピング					
第6回	膝関節部に用いるテーピング(1)					
第7回	膝関節部に用いるテーピング(2)膝関節の解剖学とホワイトテープの使用					
第8回	肘関節に用いるテーピング					
第9回	肉離れに用いるテーピング					
第10回	クラーメル副子を用いたシーネの作成					
第11回	シーネを用いた関節固定実技					
第12回	硬性素材を用いた関節固定実技(1)					
第13回	硬性素材を用いた関節固定実技(2)					
第14回	足部の解剖学及び足関節テーピングの練習					
第15回	復習・まとめ					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	配布資料					
参考文献	包帯固定学改訂第2版(南江堂)					
評価基準	記述式評価試験50% 実技評価試験50%					
履修上の注意	出席率4/5以上					
備考						

2020(令和2) 年度 講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	基礎見学実習		講師名	福田 学		
			実務経験			
実務内容						
講義形態	実習	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	接骨院運営の全体像を見学し、社会的役割を理解する インフォームドコンセントと患者同意の理解					
到達目標	来院する患者に対し、医療提供側と医療サービスを受ける患者側のそれぞれの理想的関係を説明することができる。また、接骨院運営に必要なハード、ソフト、システムを理解、説明することができ、患者との対人関係において、相応の態度が取れる。					
回数	講義計画					
第1回	施設運営の見学					
第2回	施設運営の理解					
第3回	保険制度の概要を見識する					
第4回	保険制度の概要を理解する					
第5回	患者観察法の見学					
第6回	患者観察法の理解					
第7回	患者対応法の見学					
第8回	患者対応法の理解					
第9回	医療介護融合の見学					
第10回	医療介護融合の理解					
第11回	多職種連携の見学、理解					
第12回	救急外傷患者への対応の見学					
第13回	救急外傷患者への対応と理解					
第14回	対象疾患適用外患者への対応の見学と理解					
第15回	インフォームドコンセントと患者同意の観察と理解					
第16回						
テキスト	なし(必要資料を適時配布)					
参考文献	柔道整復理論書、関係法規					
評価基準	実習簿の内容評価(50%)、終了後口述面接(50%)					
履修上の注意	100%の出席を要する					
備考	履修内容:柔道整復師の資格を持つ、院長や他の資格者が患者に対してどのような医療サービスを提供しているかを見学する。治療や接骨院運営に関する質問を行い、知的好奇心を引き出す。課題を提供し、デイリーノート(実習簿)や口述において発表させる。インフォームドコンセントと患者同意の対応を重要性を認識させ、観察させる。					

2020(令和2) 年度 講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	1 年	単位数	1 単位
科目名	基礎体験実習			講師名	桃井 俊明	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	実習	学期	後期	分野	専門分野	
講義目的	医療材料や機器などの対応を体験し、理解をする。 患者誘導や安全領域での施術補助を体験し、理解を深める。					
到達目標	医療材料や機器に接触することにより、機能と効果を理解する。 患者誘導や対応時のリスクマネジメントの重要性を認識し、患者安全、医療安全への行動理解ができる。					
回数	講義計画					
第1回	医療材料、医療機器等の機能の理解					
第2回	医療材料、医療機器等の役割と効果の理解					
第3回	患者観察、誘導補助の実践					
第4回	患者支援行動の実践					
第5回	患者への具体的な対応の見学とその補助					
第6回	患者への具体的な医療サービス提供の見学とその補助					
第7回	施術録作成の見学と理解①					
第8回	施術録作成の見学と理解②					
第9回	患者安全と医療安全の徹底と具体的行動①					
第10回	患者安全と医療安全の徹底と具体的行動②					
第11回	インフォームドコンセントと患者同意説明の観察①					
第12回	インフォームドコンセントと患者同意説明の観察②					
第13回	施術現場における多職種連携の理解					
第14回	施術現場における多職種連携の実践					
第15回	施術現場における指導管理上の留意点					
第16回						
テキスト	なし(必要資料を適時配布)					
参考文献	柔道整復理論書、社会保障制度と柔道整復の職業倫理、関係法規					
評価基準	実習簿の内容評価(50%)、巡回指導時の口述評価及び指導者評(50%)					
履修上の注意	100%の出席を要する					
備考	履修内容:実際に患者誘導や対応の補助、観察を行う。指導者の指示で医療材料、機器など対応、補助を行う。					